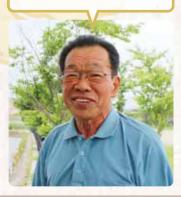
楽しみながら習得できる 成人男性に引き継ぎたい

広瀬魚獲り組合 組合長

^{しもの まさたか} **下野 正孝** さん(74)

ハンギリ出しは、「広瀬魚獲り組合」 に所属する52歳から80歳までの有志 12人で行っています。私がハンギリ出 しを始めた約40年前は、人々が各地 からやって来て、獲った魚が足りなく なるほどの盛況でした。今では見物客 の数は300人ほどに減りましたが、懐 かしがる人も多く、残していきたい行 事です。体力がいるので成人男性に 限りますが、楽しみながら漁を覚えら れる人であれば地域外からも参加で きます。ぜひ、声をかけてください。



が、行事の起源といわれています。

島津藩が給料の代わりに漁業権を与えたこと



↑ 行事名の由来ともなった「半切り」。 獲れた魚を入れる。

島

市

国

分 広 瀬 潮 遊 池ち

精進落としの伝統行事

衆。魚のかかった網を上げながら「いおめー(魚 が獲れた)」と叫ぶ声に、 拍手が沸き起こります。 網を投げ、 な桶を取りつけただけのシンプルな筏に乗り、 長さ約7mの2本の竹と5枚の板に、 時には池に潜って魚を追い込む男 大勢の見物客から 大き

なりました。この潮だまりを管理する水守に、 つも作られ、エッナを始めとする格好の漁場と 田になった場所。海沿いには、 飼料桶に入れることから。見物客は、 来は、獲れた魚を「半切り」という底の浅い馬の さばき、自前の酢みそで食べるのが習いです。 たエッナ(ぼらの子)などの魚を買ってその場で **広瀬地区にある潮遊池で行われる「ハンギリ出** これは、毎年盆明けの8月16日に、霧島市の 潮遊池周辺は、かつては遠浅の砂浜で、江戸 という精進落としの伝統行事です。名の由 弘化2 (1845) 年の干拓によって水 潮だまりがいく 漁で獲れ

ŋ

魚を獲って、その場で食べる

るようになり、 が楽しいからですよ」とおっしゃっていました。 た目以上に難しく、30代の頃から難儀をしなが です」と語る「広瀬魚獲り組合」組合長の下野正 からですが、いつしか新暦の8月16日に行われ までがんばれたのかの問いに、「漁の後の飲み会 ら練習し、技術を習得したそうです。なぜ、そこ 孝さんは、 大きい大潮の、この時期に魚を獲りやすかった 3日間だけ行うのが決まりでした。干満の差が 継がれていくもののようです。 伝統の技と心は、 昔は、旧暦の8月16日、9月1日、9月15日の ハンギリ出しの名人。しかし、 精進落としの行事になったよう 楽しみがあってこそ、 守



の自然や文化について学ぶことができます。

霧島市国分広瀬に伝わる

「ハンギリ出し」をご紹介します。

今回はそんな伝統行事の中から

個性豊かな伝統行事・祭りが残っています。

鹿児島には、古くから受け継がれてきた